

## F-15 戦闘機退役に伴う巡回配備以降の騒音激化に嚴重抗議する意見書

嘉手納基地に常駐配備されているF-15戦闘機の段階的退役に伴う巡回配備以降、米軍機から発生する騒音が増大していることが明らかになった。

町の測定調査によると、巡回配備が開始された令和4年11月から令和5年10月までの1年間の騒音発生回数は屋良測定局で15,221回、嘉手納測定局15,361回、兼久測定局10,184回、ロータリープラザ測定局17,620回計測され、巡回配備前の令和3年11月から令和4年10月までと比較すると屋良局で2,742回増、嘉手納局1,074回増、兼久局1,998回増、ロータリープラザ局888回増加している。

とりわけ、F-35戦闘機等が巡回配備された今年4月から10月までの7か月間においては、90デシベル以上の激しい騒音が屋良局では2,113回、前年同期対比約5.6倍、嘉手納局1,322回(約8.8倍)、兼久局318回(約5.4倍)、ロータリープラザ局1,956回(約4.9倍)と町全域に激しい轟音が断続的に鳴り響く実態を如実に表している。

また最近、パパループにおいてはHH-60救難ヘリが頻繁に使用し、昼夜を問わずエンジン調整や訓練を繰り返している。同地区近くに設置しているロータリープラザ局においては、夜10時から明朝6時までの深夜早朝の時間帯に100回以上の騒音が発生した月は今年4月から10月までの間5か月あり、最も多かった7月には181回も発生し、周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が常態化している。

本町議会は、巡回配備以降騒音が増加したことを踏まえ、今年2月13日及び7月19日の臨時会において米軍機の騒音激化に抗議する意見書・決議を全会一致で可決し、日米両政府及び関係機関に抗議したばかりである。米軍の傍若無人な基地運用は受忍限度をはるかに超えており、長年、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつあり強い憤りを禁じ得ない。日米両政府においては町民の切実な訴えに真摯に耳を傾け、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地におけるF-15戦闘機退役に伴う巡回配備以降の米軍機の騒音激化に嚴重抗議するとともに下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

### 記

- 1 夜10時から明朝6時の間の飛行及びエンジン調整等の活動禁止。場周経路は人口稠密地域上空を避けて設定するなど、「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を厳守すること。
- 2 住民居住地域に激しい騒音被害と危険な状況を及ぼす急上昇及び急旋回訓練を行わないこと。
- 3 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 4 パパループの使用を即刻停止し、今後一切の使用を禁止すること。
- 5 嘉手納飛行場からの訓練移転期間及び参加規模をより一層拡充すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年11月27日  
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官 (沖縄基地負担軽減担当)  
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使 (沖縄担当) 沖縄防衛局長  
沖縄県知事

## F-15 戦闘機退役に伴う巡回配備以降の騒音激化に嚴重抗議する決議

嘉手納基地に常駐配備されているF-15戦闘機の段階的退役に伴う巡回配備以降、米軍機から発生する騒音が増大していることが明らかになった。

町の測定調査によると、巡回配備が開始された令和4年11月から令和5年10月までの1年間の騒音発生回数は屋良測定局で15,221回、嘉手納測定局15,361回、兼久測定局10,184回、ロータリープラザ測定局17,620回計測され、巡回配備前の令和3年11月から令和4年10月までと比較すると屋良局で2,742回増、嘉手納局1,074回増、兼久局1,998回増、ロータリープラザ局888回増加している。

とりわけ、F-35戦闘機等が巡回配備された今年4月から10月までの7か月間においては、90デシベル以上の激しい騒音が屋良局では2,113回、前年同期対比約5.6倍、嘉手納局1,322回(約8.8倍)、兼久局318回(約5.4倍)、ロータリープラザ局1,956回(約4.9倍)と町全域に激しい轟音が断続的に鳴り響く実態を如実に表している。

また最近、パパループにおいてはHH-60救難ヘリが頻繁に使用し、昼夜を問わずエンジン調整や訓練を繰り返している。同地区近くに設置しているロータリープラザ局においては、夜10時から明朝6時までの深夜早朝の時間帯に100回以上の騒音が発生した月は今年4月から10月までの間5か月あり、最も多かった7月には181回も発生し、周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が常態化している。

本町議会は、巡回配備以降騒音が増加したことを踏まえ、今年2月13日及び7月19日の臨時会において米軍機の騒音激化に抗議する意見書・決議を全会一致で可決し、日米両政府及び関係機関に抗議したばかりである。米軍の傍若無人な基地運用は受忍限度をはるかに超えており、長年、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつあり強い憤りを禁じ得ない。日米両政府においては町民の切実な訴えに真摯に耳を傾け、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地におけるF-15戦闘機退役に伴う巡回配備以降の米軍機の騒音激化に嚴重抗議するとともに下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

### 記

- 1 夜10時から明朝6時の間の飛行及びエンジン調整等の活動禁止。場周経路は人口稠密地域上空を避けて設定するなど、「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を厳守すること。
- 2 住民居住地域に激しい騒音被害と危険な状況を及ぼす急上昇及び急旋回訓練を行わないこと。
- 3 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 4 パパループの使用を即刻停止し、今後一切の使用を禁止すること。
- 5 嘉手納飛行場からの訓練移転期間及び参加規模をより一層拡充すること。

以上、決議する。

令和5年11月27日  
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官  
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長